

■ 概要

台風接近に伴い、激しい風雨に見舞われながら、全日本大会の第1日目が始まりました。騒音試験、チルト試験は翌日に見送りという措置が取られ、また、午後からはブレーキロック試験が中止となりました。さらに、テントで行われていた技術車検が、ECOPA スタジアムの地下駐車場に移動となるなど、大荒れの大会となりました。

技術車検以外の車検が翌日に見送りとなったことで、今後どのようなスケジュールで大会が運営されていくかは、全くつかめない状況です。おそらく、進行状況を見ながら、随時スケジュールが更新されていくものと思われます。どのような状況になるかは分かりませんが、見送られた車検が全て2日目の午前中に詰め込まれるという最悪の事態を想定して、チームミーティング、スタッフミーティングを重ねております。

■ 静的審査（コスト・デザイン・プレゼン）

8:00 からコスト審査、8:45 からデザイン審査、15:15 からプレゼンテーション審査が行われました。静的審査は審議の上で得点が決定され、審査に時間がかかるため、また大雨により大会運営が麻痺していたため、得点および順位は公表されていません。公表され次第、随時報告していきます。

まずはコスト審査ですが、コストの安さ、コストレポートの正確性、ある部品のコスト削減のプレゼン、という3項目について得点が与えられます。コストの安さについては、事前提出のレポートをもとに評価されますが、他大学の試算したコストがどの程度なのか比較データがないため、得点発表されるまで何とも言えない状態です。レポートの正確性の審査では、数値の入力ミスなどを指摘されました。去年は、根本的な記入漏れを指摘されましたが、今年は非常に細かい指摘が多かったので、手応えを感じております。コスト削減のプレゼンでは、排気システムが対象となり、事前に練習を重ねた通りの発表ができました。



プレゼンテーション審査は、社内にフォーミュラマシン製造事業の立ち上げに関するプレゼンを行うという仮想のもと、発表を行います。事前に何度も練習を行って臨みましたが、いつもとは勝手の違う状況で、最後のほうのスライドを少し残したまま終わってしまった点が悔やまれます。去年は、技術的な部分をアピールしすぎてしまい、趣旨がずれているという指摘を受けましたが、今年は市場分析、事業計画を徹底的にプッシュしました。講評では、プレゼン内容に対して、ここがマズかったなどというネガティブなコメントは一切なく、このような内容を盛り込めばより高評価に繋がるだろう、など、次回に向けてのアドバイスを頂くことができました。

デザイン審査では、マシンの PR ポイントについてのプレゼンと質疑応答が行われ、質疑応答を行いながら、カウリングやマシンの美しさ、溶接のうまさ、整備性の良さなどをチェックされます。プレゼンでは、もっと伝えたい事がありましたが、時間の制約から絞り込んで発表しました。去年は時間を余らせてしまいましたが、今年は足りないほど PR すべき点がたくさんあるということで、大幅な得点アップが期待できそうです。



■ 技術車検

静的審査終了後に軽い整備を行い、10:00 から技術車検に挑みました。

- ・燃料タンク通気ホースの折れをなくすこと
- ・ファイアウォールの隙間がやや大きい
- ・燃料ホースの固定をもう少ししっかりすること
- ・一部ボルトに緩み止め処置がされていない

などの軽度な指摘のみで、大きな問題は発生しませんでした。改善を行い、すぐに再車検を受けて、無事に技術車検を通過しました。